

教養文化研究所所員 2013年度業績一覧

青山 征彦

【著書】

伊東昌子（編）『コミュニケーションの認知心理学』（共著）（2013年10月，ナカニシヤ出版）担当部分は第6章「インタフェイスとしての映像：わかりやすさを支えるしくみ」，Pp.81-98.

【口頭発表】

青山征彦・岡部大介（企画）「"Make:/Fab コミュニティ"における実践：なぜつくる／つどうのか」（2013年9月，日本認知科学会第30回大会ワークショップ）

青山征彦・香川秀太・岡部大介（企画）「実践と介入をめぐる：可能性，困難，研究者のありかた」（2013年8月，日本質的心理学会第10回大会 会員企画シンポジウム）

香川秀太・青山征彦（企画）「教育心理学の「学校外の社会へ」の拡張と協働（越境論から）」（2013年8月，日本教育心理学会第55回大会 自主企画シンポジウム）

【社会活動】

青山征彦・香川秀太「コミュニティの変革とデザイン：越境的な学びの可能性」（2013年10月，人材育成マネジメント研究会における講演）

【その他】

青山征彦・新垣純子『認知科学』Vol.21, No.1「Everyday Things の認知科学」（特集エディタ）

青山征彦「現実の複雑さとわたりあえる心理学へ」（日本質的心理学会設立10周年記念企画「質的研究の未来—その可能性と課題」）（2013年12月，質的心理学会フォーラム Vol.5, Pp.90-91.）

青山征彦「あらためて言語活動を考える」（2014年1月，瑞穂町立瑞穂第二中学校研究紀要，Pp.37-38.）

【現在の研究テーマ】

コミュニティの中での学びや熟達，メディアの使用について

明石 真和

【社会活動】

「1964年東京五輪時の日本サッカー事情」取材のため、デットマール・クラマー氏（ドイツ）訪問（2013年9月）

【現在の研究テーマ】

ドイツ語学, ドイツ文化

秋池 宏美

【学術論文】

「教育課程行政における学習指導要領の「基準性」の意義」（2014年1月, 駿河台大学論叢第47号, pp.143-167）

「学習指導要領の『基準性』と性教育の自由」（2014年2月, 駿河台法学第27巻第2号, pp.174-200）

【現在の研究テーマ】

子供の性的人権の研究

〈教育関係〉の教育政治学研究

天野 宏司

【著書】

保坂一房・梅田定宏・天野宏司編著『多摩市町村のあゆみ』（共著）（2014年2月, 公益財団法人 東京市町村自治調査会）担当部分は第1章2節「東西か？南北か？」7-8, 第2章1節「別荘・行楽地・墓地の広がり」11-12, 第2章2節「電力の普及と学園都市」13-14, 第4章3節「米軍基地と多摩」27-28, 第5章3節「三多摩格差の解消」33-34.

【学術論文】

「熱海におけるコンテンツツーリズムの浸透－金色夜叉を事例に－」（2014年1月, 『歴史地理学』56(1), 1 - 18頁）.

【口頭発表】

「熱海におけるコンテンツツーリズムの浸透－金色夜叉を事例に－」（2013年5月 歴史地理学会 於 砺波散村地域研究所）.

「飯能市におけるアニメ・ツーリズムの取り組み－隣の芝生は青いか？－」（2013年9月 日本地理学会 於 福島大学）.

【社会活動】

秩父サイクルトレイン実行委員会 委員

福生市 文化財総合調査委員会 指導員

秩父アニメツーリズム実行委員会 委員

飯能アニメツーリズム実行委員会 委員

放送大学東京多摩学習センター 連続公開講演会「多摩を学ぶⅡ 多摩のインフラ整備—鉄道・電気・水道—」(2014年2月, 放送大学東京多摩学習センター)

【その他】

「観光と交通」駿河台大学 HP 記事(2013/03/26),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/03/post-172.html

「地域の宝—身近な観光資源—」駿河台大学 HP 記事(2013/04/03),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/04/post-174.html

「教員書籍出版のご紹介」駿河台大学 HP 記事(2013/04/10),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/04/post-175.html

「フィールドトリップ I が実施されました」駿河台大学 HP 記事(2013/06/04),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/06/post-182.html

「被災地での教育実習」駿河台大学 HP 記事(2013/06/19),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/06/post-184.html

「フィールドトリップ I —異邦人集住地域を歩く—」駿河台大学 HP 記事

(2013/07/23),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/07/post-186.html

「飯能夏まつりで地域貢献」駿河台大学 HP 記事(2013/07/25),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/07/post-187.html

「あの花 夏まつり in 秩父で地域貢献」駿河台大学 HP 記事(2013/08/31),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/08/-in.html

「授業の一風景—ゼミ合宿で観光実態調査—」駿河台大学 HP 記事(2013/09/05),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/09/post-190.html

「海外観光研修が実施されましたその①—実施報告・初日—」駿河台大学 HP 記事(2013.09.25),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/09/post-192.html

「海外観光研修実施報告その②—二日目～三日目—」駿河台大学 HP 記事

(2013.09.30),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/09/post-193.html

「海外観光研修実施報告その③—四日目～帰国—」駿河台大学 HP 記事

(2013.10.03),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/10/post-194.html

「授業の風景－卒業研究－」駿河台大学 HP 記事 (2013.12.17更新記事),

http://www.surugadai.ac.jp/gakubu_in/gendaibunka/2013/12/post-202.html

【現在の研究テーマ】

人文地理学

天野 武男

【翻訳】

Seisho Kyouiku (April-May-June): The Word of God in Us

Lessons 9-10-11 (pp.25-33) I Was Called before I Was Born

Japan Baptist Convention, Saitama, Japan 2013

Seisho Kyouiku (July-August-September): Faith in the Grace of the Lord

Lessons 22-23-24 (pp.26-35) To Live, Nestling Up

Japan Baptist Convention, Saitama, Japan 2013

Seisho Kyouiku (October-November-December): Responding to the Love of the Lord

Lessons 35-36-37 (pp.27-35): The Shepherd Who may Give Life

Japan Baptist Convention, Saitama, Japan 2013

Seisho Kyouiku (January-February-March): Our Eyes on God's Hope

Lessons 48-49-50 (pp.25-33): Every Time Herod Heard about Jesus

Japan Baptist Convention, Saitama, Japan 2014

【社会活動】

飯能市廃棄物減量等推進審議会会長 2010年10月1日～現在まで

【現在の研究テーマ】

新約聖書におけるパウロ書簡

「ヨハネの黙示録」に出る象徴的数字

市川 紀子

【学術論文】

市川紀子「第7章 スプローズ=ムーニッツと資産負債観」(2013年9月, 日本会計研究学会第72回大会, 日本会計研究学会スタディ・グループ中間報告書, 上野清貴

教授主査『学説研究による会計理論構築の探求』, pp.84-93)。

【口頭発表】

市川紀子「『人生を豊かにする簿記』第3章 簿記の知識を応用する 第1節 投資で社会を元気にする」(2013年6月23日, 簿記教育研究会第38回研究会, 於全国経理教育協会会館)。

孔炳龍教授代表・共同報告「【中間報告:要旨】新地方公会計制度に関する考察—飯能市財務4表の分析を中心として—」(2013年7月25日, 駿河台大学経済研究所・特別研究経過報告(孔炳龍教授代表), 於駿河台大学第4会議室)

上野清貴教授主査・共同報告「学説研究による会計理論構築の探求」(2013年9月5日, 日本会計研究学会第72回大会, 日本会計研究学会スタディ・グループ(上野清貴教授主査)中間報告, 於中部大学春日井キャンパス)。

市川紀子「医薬品業界(製薬業界)の概要と会計処理(簿記実務)について(仮題)」(2013年12月14日, 日本簿記学会簿記実務研究部会(成川正晃教授部会長)「業種別簿記実務の研究」第7回研究会, 於山梨県立大学)。

【社会活動】

埼玉県公衆浴場入浴料金審議会委員

飯能市企業誘致審査委員会委員

税務大学校「平成25年度評価特別研修」講師

【その他】

孔炳龍教授・湯浅由一教授・市川紀子(共著)『駿大生のための経営数学ハンドブック』(2014年3月, 駿河台大学)。全体の編集・執筆は, 孔炳龍教授・湯浅由一教授・市川紀子。平成24年度社会人基礎力育成教育助成費「入門演習の金融・会計分野(ビジネスとマネーコースに関連する)共通テキスト開発研究」(市川紀子代表, 湯浅由一教授, 孔炳龍教授との共同取組)の成果。

孔炳龍教授・市川紀子(共著)『インタラクティブ型講義みんなで考える会計学—国際財務報告基準の検討—』(2014年3月, 駿河台大学/印刷:文化新聞社)。全体の編集・執筆は, 孔炳龍教授・市川紀子。平成25年度社会人基礎力育成教育助成費「インタラクティブ型講義の教材開発:みんなで考える会計学(国際財務報告基準の検討)」(市川紀子代表, 孔炳龍教授との共同取組)の成果。

平成24年度特別研究助成費「新地方公会計制度に関する一考察—飯能市財務4表の分析を中心として—」(孔炳龍教授代表, 湯浅由一教授, 狩谷求教授, 市川紀子との共同研究)。

平成25年度特別研究助成費「大学の地域連携における経済・経営・会計研究の在り方」(大森一宏教授代表, 高垣行男教授, 孔炳龍教授, 市川紀子との共同研究)。

平成25年度日本簿記学会学会賞受賞(共同), (日本簿記学会第29回全国大会, 2013年8月31日, 於立教大学)。

市川紀子「簿記のススメ」(埼玉新聞, COLUMN 県内大学発経世済民, 2013年8月24日)。

【現在の研究テーマ】

学説研究による会計理論構築の探求

業種別簿記実務の研究

教養としての簿記に関する研究

財務会計論の理論基盤の研究

中心観を基軸とした計算体系の再検討

伊藤 雅道

【学術論文】

「Radiocesium concentrations in epigeic earthworms at various distances from the Fukushima Nuclear Power Plant 6 months after the 2011 accident」

(2013年8月, 『Journal of Environmental Radioactivity』, 第129号, pp.8-13) (共著)

「明治神宮の陸生大型ミミズ類」(2013年9月, 『鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書』, pp. 437-440)

【口頭発表】

「福島県の森林におけるミミズの放射性セシウム濃度の経時変化—事故後半年と1年半での比較」(2013年5月, 第36回日本土壌動物学会大会, 於福岡教育大学)

【社会活動】

環境省希少野生動植物種保存推進員

飯能市環境審議会委員

入間市環境審議会委員

天覧山谷津の里づくりプロジェクト委員

かながわ県民会議施策調査専門委員会委員

駿河台大学春の公開講座「加治丘陵の自然観察」, 講師 (2013年5月, 於駿河台大学)

第2回いるま環境フェア，パネルディスカッションコーディネーター，展示解説
(2013年6月，於入間市産業文化センター)

ふじみ野市地域学習講座「土の中の生き物観察会」講師 (2013年7月，於上野台
小学校)

駿河台大学秋の公開講座「加治丘陵の自然観察」講師 (2013年12月，於駿河台大
学)

豊岡プチ大学ミニ講座「動物における婚姻，家族，子育ての進化」講師 (2013年
12月，於駿大ふれあいハウス)

日本科学協会サイエンスメンター (2014年3月～)

【その他】

「第37回大会に向けて」(2013年8月，『どろのむし通信』第58号，p. 12)

【現在の研究テーマ】

大型陸生ミミズ類の自然史研究，里山生態系の生物多様性保全及び自然再生

井上 久士

【口頭発表】

「平頂山事件研究の到達点と課題」(2013年9月，平頂山事件国際学術シンポジウ
ム，於中国・撫順)

【現在の研究テーマ】

日中戦争時期を中心とした中国政治史，近代日中関係史

岩熊 史朗

【口頭発表】

「『イライラ』の構造について ～因子分析による検討～」(2013年10月，日本パ
ーソナリティ心理学会第22回大会，於江戸川大学，安井友紀乃との共同発表)。

【現在の研究テーマ】

パーソナリティの基礎理論

海老澤 豊

【学術論文】

海老澤 豊 「十八世紀英国における都会風牧歌」(2013年1月，『駿河台大学論
叢』第47号，pp. 81-108)

【現在の研究テーマ】

十八世紀英国における牧歌

太田 隆士

【社会活動】

・講演 「タウトとジャポニスム」

(2014年3月2日, 熱海・起雲閣にて。NPO 法人オアシス21主催, NPO 法人日向家熱海別邸保存会後援)

・展示会「タウトと旧日向家熱海別邸」展(2014年2月1日～3月31日, 熱海・起雲閣にて)

【現在の研究テーマ】

- ・世紀転換期ウィーン
- ・昔話・神話と深層心理学
- ・ワイマール文化研究

大貫 秀明

【口頭発表】

「対話のできるからだの育成 — ダンスの振付け作業が導く〈身心〉の解放と他者受容」

(2013年8月 日本体育学会第64回大会 共同研究者: 米澤麻佑子(東京芸術大学) 於: 立命館大学)

「対話のできるからだの育成 — 「創作ダンス」の再評価に向けて—」

(2013年12月 第65回舞踊学会大会 共同研究者: 米澤麻佑子(東京芸術大学) 於: 愛知芸術文化センター)

【社会活動】

日本学術会議 健康・生活科学委員会

健康・スポーツ科学分科会関連協力学術研究団体連絡担当委員

舞踊学会常務理事

舞踊学会ニューズレター (編集委員長)

舞踊学会

投稿研究論文査読委員

日本体育学会体育哲学専門分科会

投稿研究論文査読委員

日本体育・スポーツ哲学会

投稿研究論文査読委員

舞踊学会 第18回定例研究会一般研究発表座長 (於：学習院女子大学) 2013年6月

舞踊学会 第65回学会大会 一般研究発表座長 (於：愛知芸術文化センター) 2013年12月

駿河台大学スポーツ教育センター長

駿河台大学 新学部構想検討委員会委員

埼玉県高等学校ダンスコンクール審査委員

【その他】

エッセー 「ニュージーランドにみるスポーツのすがた ー綾なすことばとからだへの信頼ー」

「みんなのスポーツ」7月号 日本体育社 pp.21-23

巻頭言 「駿大スポーツ年鑑」 第3号 p.1 2013年7月

報告 2013(平成25)年度 日本学術会議活動報告 舞踊学第36号 p.143
2014年3月

報告 2012(平成24)年度 舞踊学会 HP 委員会活動報告 舞踊学第36号
p.146 2014年3月

【現在の研究テーマ】

① Rudolf von Laban 研究

② 「介護・介助の社会化時代」におけるからだの動きの理解とその応用力の育成

大森 一伸

【学術論文】

大森一伸「陸上初心者を対象とした短距離30m走の指導における注意の向け方が記録に及ぼす影響」駿河台大学論叢, 第47号, 187-195.

【研究ノート】

大森一伸「オリンピック競技大会(2012/ロンドン)におけるサッカー日本代表男子チームのコンディショニングの一考察：関塚隆監督のインタビューから」駿河台大学論叢, 第46号, 85-95.

【口頭発表】

大森一伸・村岡功「スポーツにおけるトレハロース利用の可能性」第17回トレハロースシンポジウム

【現在の研究テーマ】

研究領域：スポーツ科学

研究テーマ：トレーニングに対するエネルギー供給能力の適応，特に乳酸の利用について

岡田安芸子（藤村安芸子）

【学術論文】

「古代日本における神と自然」（2014年1月、『駿河台大学論叢』第47号，1-22頁）。

【口頭発表】

「日本倫理思想史における「おのずから」ー古代を中心にー」（2014年3月16日，ネットワーク日本哲学第三回研究会 共通テーマ「現実・因果・必然」，（於京都大学文学部）

【現在の研究テーマ】

仏教を中心とした日本倫理思想史

櫻坂 英子

【研究ノート】

櫻坂英子(2013). 女性誌にみる伝統的性役割. 駿河台大学論叢47, pp229-240.

【口頭発表】

永作稔・櫻坂 英子(2013). 大学2年生に対するキャリア教育科目の効果測定
III

ー対照群との比較検討ー 日本教育心理学会第55回総会大会（法政大学）.

永作稔・櫻坂 英子(2013). 大学2年生に対するキャリア教育科目の効果測定

IV

ーCAVT（達成版）得点の授業後における変化ー 日本心理学会第77回大会（北海道医療大学）.

櫻坂英子(2013). カルチュラルスタディーズへの接近. 日本心理学会・ジェンダー研究会共催公開シンポジウム話題提供者 ジェンダー研究における質的アプローチの可能性

企画代表者：青野篤子 日本心理学科第77回大会(北海道医療大学).

Eiko Oaska(2013). A comparative analysis of western and Asian cities

featured in travel articles in magazines read by young Japanese women, the 17th Biennial Conference of Japanese Studies Association of Australia. The Australia National University, Australia.

【現在の研究テーマ】

米国占領期の日本の心理学, ジェンダーとキャリア, 日本語教師に関する質的研究

A. R. Oberg

【著書】

1. Oberg, A. (2011, appended 2012). *Tomorrow, as the Crow Flies*. Charleston, SC, USA: Drugstore Books with CreateSpace Press.
2. Oberg, A. (2010). *Randolph's One Bedroom*. Charleston, SC, USA: Drugstore Books with CreateSpace Press.
3. Oberg, A. & Uhlich, E. (2009). *Green Skies*. Raleigh, NC, USA: Drugstore Books with Lulu Press.
4. Oberg, A. (2008). *Putting Pen to Paper: An Advanced Reader and Writer*. Kochi City, Kochi, Japan: Kochi Women's University Press.

【学術論文】

1. Oberg, A. (2013). The Occupied toolbox: Revisiting the question of violence as an instrument of protest. *International Journal of Applied Philosophy*, 27(1), 15-25.
2. Oberg, A. (2013). Don't put mouths in my words: Intuitive moral judgments and the quest for a factual vocabulary. *Philosopher*, November 07, 2013. <[http://philosopher.io/ Quest-for-a-Factual-Vocabulary](http://philosopher.io/Quest-for-a-Factual-Vocabulary)>.
3. Oberg, A. & Daniels, P. (2013). Analysis of the effect a student-centered mobile learning instructional method has on language acquisition and retention. *Computer Assisted Language Learning*, 26(2), 177-196. (First published online February 01, 2012: DOI:10.1080/09588221.2011.649484)
4. Oberg, A. (2012). Receptive and productive vocabulary acquisition: Examining processing time and memory threshold. *Indonesian Journal of Applied Linguistics*, 2(1), 22-37.
5. Oberg, A. (2012). Using vocabulary picture cards with low-level learners.

Surugadai University Studies, 43, 117-130.

6. Oberg, A. (2011). Comparison of the effectiveness of a CALL-based approach and a card-based approach to vocabulary acquisition and retention. *CALICO Journal*, 29(1), 118-144.
7. Oberg, A. (2009). Preparing students for the Eiken interview test. *The Language Teacher*, 33(8), 9-12.

【研究ノート】

1. Oberg, A. (2013). Against Rorty: On Judging Heidegger. *Philosopher*, December 11, 2013.
< <http://philosopher.io/Against-Rorty-On-Judging-Heidegger>>.
2. Oberg, A. (2013). Durkheim and Society as a Moral Entity: A Brief Synopsis and Critique. *Surugadai University Studies*, 45, 169-177.

【書評】

1. Oberg, A. (2012). Critique of Hannah Arendt's *On Violence*. *Surugadai University Studies*, 44, 155-162.

【口頭発表】

1. Oberg, A. (2013, July). *This has got nothing to do with George*. Presented at the 2013 Joint Meeting of the Society for Asian and Comparative Philosophy and the Australasian Society for Asian and Comparative Philosophy, Singapore, Singapore.
2. Oberg, A. (2012, May). *Analysis of a student-centered mobile learning approach*. Presented at the International CALL 2012 Conference, Taichung, Taiwan.
3. Oberg, A. (2012, February). *Receptive and productive vocabulary acquisition: Examining the processing time required and searching for hints of a memory threshold*. Presented at the International CamTESOL Conference, Phnom Penh, Cambodia.
4. Oberg, A. & Daniels, P. (2011, June). *Self-Paced Study via the iPod Touch: Research Report*. Co-presented at the National JALT CALL Conference, Kurume City, Fukuoka Prefecture, Japan.
5. Oberg, A. (2010, February). *Applying Moodle software-based quizzes and surveys to the classroom environment*. Presented at the Winter East

Shikoku JALT Conference, Kochi City, Kochi Prefecture, Japan.

6. Oberg, A. (2008, February). *Effectively using multi-media materials in a CALL setting*. Presented at the Winter East Shikoku JALT Conference, Kochi City, Kochi Prefecture, Japan.

7. Oberg, A. (2007, September). *Teaching vocabulary to low-level learners*. Presented at the Fall East Shikoku JALT Conference, Kochi City, Kochi Prefecture, Japan.

【その他】

1. Oberg, A. (2013). Frankenroach: Neuroscience, Values & Cockroaches? *Philosopher*, November 11, 2013

<[http://philosopher:o/Neuroscience-Uvalues-&-Cockroaches](http://philosopher.o/Neuroscience-Uvalues-&-Cockroaches)>.

2. Oberg, A. (2013). Applying One's Self. *Drugstore Books*, June 21, 2013.

<<http://drugstorebooks.com/?p=2433>>.

【現在の研究テーマ】

Ethics, Social Morality, The Self (倫理, 社交の道徳, 自己)

小俣 謙二

【学術論文】

「性犯罪被害者に対する第三者の非難と心理的被害の過小評価に影響を及ぼす要因：被害者の社会的尊敬度と暴力的性に対する女性の願望に関する誤解。」(2013, 社会心理学研究, 29, 1-10)

「レイプ被害者に対する大学生の態度を規定する要因：性役割観とレイプに対する認知。」(2013, 犯罪心理学研究, 51, 13-27)

【口頭発表】

「『Dating Violence』をどうとらえるか—定義と測定方法を考える」(ワークショップ, 企画者説明)(2013年9月, 日本心理学会第77回大会, 於, 札幌市産業振興センター)

「男子大学生における自身のセクシュアル・ハラスメントの実行可能性評価に影響を及ぼす要因」(2013年9月, 日本心理学会第77回大会, 於, 札幌市産業振興センター)

「中日大学生 Dating Violence 的実況調査」(劉融氷と連名)(2013年11月, 第16回全国心理学学術会議, 於, 南京師範大学)

「駐車場における犯罪発生に関する環境要因の検討」(三好裕己と連名)(2014年3月, 日本環境心理学会第7回大会, 於, 白鷗大学)

【現在の研究テーマ】

暴力と攻撃行動ならびに地域防犯活動に関する犯罪社会心理学的研究

川邊 讓

【著書】

「クローズアップ 犯罪」(共著)(2013年8月, 福村出版)担当部分は, 第1章トピック10「少年犯罪」96-104

【口頭発表】

「体罰問題に関する教育の実践報告」(2013年9月, 日本犯罪心理学会第51大会, 於大阪教育大学)

【社会活動】

内閣府子ども・若者育成支援施策点検評価会議座長代理
人事院試験専門委員

日本心理学諸学会連合理事

日本犯罪心理学会常任理事・常任編集委員

日本矯正医学会評議員

公益財団法人日本人事試験研究センター専門委員

日本臨床心理士養成大学院協議会代議員

東京臨床心理士会代議員

裁判員裁判のための対人援助専門職

内閣府平成25年度子ども・若者育成支援, 関東甲信越静ブロック研修会基調講演
及び研修講師

法務省矯正研修所東京支所講師 3回

法務省東京矯正管区研修講師 1回

小平市教育委員会講師 1回

【現在の研究テーマ】

- 1 犯罪・非行を巡る諸問題
- 2 心理臨床実践を巡る諸問題

木塚 隆志

【現在の研究テーマ】

ヨーロッパ近世における宗教思想（終末観・神秘主義思想）

清海 節子

【学術論文】

「日本と英語のなぞなぞ比較(3) —反義語・反復表現を含まないなぞの日英比較, 「なぞなぞ」の特徴—」(駿河台大学論叢 第47号 pp.109-141頁)

【現在の研究テーマ】

意味論, なぞなぞ, 民話

久我 晃広

【著書】

久我晃広『ホッケー指導教本』(共著・編集)(2013年8月, 遊戯社) 監修は公益社団法人日本ホッケー協会, 担当部分は第1章「IIホッケーのフレームワーク」12-16, 第3章「IIホッケーの技術」75-81, 第3章「IV基本的な攻撃戦術」99-108, 第3章「V基本的な守備戦術」109-119

【社会活動】

「コーチの役割・制度」(2013年9月, 平成25年度財団法人日本体育協会公認コーチ養成講習会ホッケー競技)

「ホッケーの技術」(2013年9月, 平成25年度財団法人日本体育協会公認コーチ養成講習会ホッケー競技)

「競技力(国内・国際)の情報収集と分析・活用」(2013年12月, 平成25年度財団法人日本体育協会公認上級コーチ養成講習会ホッケー競技)

「プレゼンテーション1」(2013年12月, 平成25年度財団法人日本体育協会公認上級コーチ養成講習会ホッケー競技)

「プレゼンテーション2」(2013年12月, 平成25年度財団法人日本体育協会公認上級コーチ養成講習会ホッケー競技)

「ホッケー競技の考え方」(2013年12月, 栃木県ホッケー協会平成25年度トップ指導者招聘事業)

【その他】

2013年夏季ユニバーシアード競技大会女子ホッケー 第3位銅メダル獲得 女子
ホッケーユニバーシアード日本代表チームコーチ ロシア・カザン

2013.07.06-17.

【現在の研究テーマ】

ホッケー競技におけるゲーム分析

黒田 基樹

【著書】

『戦国大名 政策・統治・戦争』（平凡社新書713，2014年1月，総頁245）

『足利基氏とその時代〈関東足利氏の歴史1〉』（編著，戎光祥出版，2013年4月，
総頁192）

『岩付太田氏〈論集戦国大名と国衆12〉』（編著，岩田書院，2013年5月，総頁250）

『関東管領上杉氏（シリーズ・中世関東武士の研究11）』（編著，戎光祥出版，2013
年6月，総頁394）

『北条氏年表』（編著，高志書院，2013年8月，総頁226）

【研究ノート】

「史料紹介・上杉憲実文書集（1）」（『駿河台大学論叢』46号，2013年7月，39
～55頁）

「小田原落城後の北条氏一族」（『日本歴史』785号，2013年10月，92～94頁）

「史料紹介・上杉憲実文書集（2）」（『駿河台大学論叢』47号，2014年1月，207
～228頁）

【社会活動】

「太田道灌一実像と伝承を考える一」（朝霞市博物館・歴史講座，2013年7月）

「北条五代百年の“その時”（5回）」（キャンパスおだわら歴史講座，2013年8月
～9月）

「長尾景春の乱と秩父地域」（ちちぶ学セミナー公開講座，2013年9月）

「河越城をめぐる攻防」（川越市文化財保護協会講演会，2013年11月）

「長尾景春と鉢形城」（埼玉県立文書館・鉢形城歴史館歴史講座，2013年11月）

「戦国期の成田氏」（直実・蓮生を学ぶ会講演会，2014年3月）

「三田氏と小田原北条氏」（青梅市郷土博物館企画展関連講座，2014年3月）

【その他】

『戦国遺文房総編第4巻』（共編，東京堂出版，2013年5月，総頁314）

『週刊新発見！日本の歴史27号 戦国大名たちの素顔』（共編，朝日新聞社，2014年1月，総頁39）

『埼玉県史料叢書』第12巻（共著，埼玉県，2014年3月，総頁495）

【現在の研究テーマ】

日本中近世移行期社会論

孔 炳龍

【著書】『一般意味論からみる簿記原理』（創成社），2014年

【学術論文】

「資本と負債の区分に関する一考察 - 新株予約権について -」『駿河台経済論集』（駿河台大学），第23巻，第2号，2014年

「連結会計主体説の理論的考察—一般意味論からのアプローチ—」『経理研究』（中央大学）第57号，2014年

【その他】

平成25年度特別研究助成費「大学の地域連携における経済・経営・会計研究の在り方」（大森一宏代表，高垣行男教授，市川紀子准教授との共同研究）

【現在の研究テーマ】

① 減損会計②包括利益と純利益③リース会計④非財務情報の有用性⑤会計社会学

狐塚 賢一郎

【社会活動】

飯能市「健康・体力づくり市民会議」委員

飯能市社会教育委員

埼玉県ラグビーフットボール協会 大学部会広報委員

関東大学ラグビーフットボール連盟理事

大学体育連合埼玉県支部理事

日本コーディネーショントレーニング協会監事

飯能市立保育所（9保育所，1幼稚園）巡回コーディネーショントレーニング教室（11回）

（2013年5月～2014年1月）

埼玉県西部地区保育士研修会講師（2012年6月7日（金））

飯能市立原市場小学校 学校保健委員会研修会「コーディネーショントレーニング

ング」

(2013年6月28日 (金))

飯能市立加治小学校 PTA 家庭教育学級合同講演会「子どもの体とコーディネーショントレーニング」(2012年9月20日 (金))

飯能市スポーツ少年団リーダー研修会「コーディネーショントレーニング体験会」(2013年3月15日 (土))

飯能市児童センター「コーディネーショントレーニング」(2013年3月26日 (水))

【現在の研究テーマ】

コーディネーショントレーニングによる幼児，高齢者の運動能力，コミュニケーション能力向上

コーディネーショントレーニングによるラグビーの競技能力向上

小林 将輝

【社会活動】

講演「昔話の構造」(2013年5月，小澤昔ばなし研究所主催市民講座「鹿児島昔ばなし大学」／2013年6月，同主催「山口昔ばなし大学」，2013年12月，同主催「福岡昔ばなし大学」)

公開講座「若き日のグリム兄弟と19世紀初めのドイツ」(2013年6月，駿河台大学ふれあいハウス主催公開講座「豊岡プチ大学」)

公開講座「語られてきた物語—昔話の特徴とメッセージ」(2014年3月，山梨子ども図書館主催「子どもの本の専門家養成講座」)，「若き日のグリム兄弟」(2014年3月，同主催同講座)

【その他】

雑誌記事「グリム兄弟の足跡をたずねて(24)-(27)」(2013年4，7，10月，2014年1月，小澤昔ばなし研究所発行『子どもと昔話』55，56，57，58号)

【現在の研究テーマ】

ドイツ旅行文学，グリム童話，観光の理論

小林 奈穂美

【著書】

『キャリアデザイン・ワークブック コミュニケーションで広がるキャリアデザイン』(監修)

【社会活動】

日高市都市計画審議会委員

旅行産業経営塾実行委員およびOB会役員

模擬授業「ディズニーランドの魅力」8月9日駿河台大学オープンキャンパス

【現在の研究テーマ】

観光産業における人材育成

低学年向けキャリア教育の手法と教材開発

古曳 牧人

【社会活動】

社団法人日本社会福祉士会 リーガル・ソーシャルワーク研究委員会委員

【現在の研究テーマ】

犯罪者に対する福祉的支援

五味淵 久美子

【学術論文】

「長期の心理療法の終盤にみられた沈黙について」(単著)(2013年3月,「日本サイコセラピー学会誌」第13号, pp.121-128)

【社会活動】

NPO 法人埼玉児童思春期精神保健懇話会理事

飯能市公募型子ども支援事業「忍者修行2013」ボランティア参加

多摩学生支援研究会 講師 「傾聴訓練・実践～学生とどう向き合うか～」

【その他】

「臨床心理士へのことはじめ4」(2013年6月)

「臨床心理士へのことはじめ5」(2014年2月)

【現在の研究テーマ】

心理療法, 心理検査

佐古 年穂

島原 知大

【現在の研究テーマ】

19世紀イギリス文学

角田 京子

【口頭発表】

「異文化適応と青年期分離個体化—在日中国人留学生の調査から」陳坤昊，角田京子（2013年6月，第20回多文化間精神医学会，宇都宮）

“Art therapy or psychopathological research? – ‘Notes of a madman’ by Edvard Munch”（2013年10月，World Psychiatric Association International Congress 2013 Wien，ウィーン）

【社会活動】

「臨床心理学入門—タブーと深層心理」（2013年7月，出張講義，筑波大学附属酒戸高等学校）

「臨床心理学—精神分析入門」（2014年1月，出張講義，埼玉県立戸田翔陽高等学校）

【現在の研究テーマ】

統合失調症のアンビヴァレンスとセンス・オブ・エージェンシーについての精神病理学研究

多文化的状況における深層心理の変容と臨床的表出の変化の研究

竹中 彌生

【口頭発表】

「イギリスの現代演劇に見るイギリスの人種問題」

（1914年3月15日 日本人のアイデンティティーと国際社会研究会 於花園神社）

【社会活動】

「豊かな言葉英語の歴史と成り立ち—なぜ英語は世界共通語になったのか—」（1913年8月10日，駿河台大学サマー・スクール 於駿河台大学）

「比較文化研究とは何か」（AO 入試用講義 1913日10月19日 於）駿河台大学

「愛と夢のかなう場所，シェイクスピアの不思議の森」（模擬授業1914年2月27日長野県立岡谷東校高 ）

【現在の研究テーマ】

江戸時代末期から明治の日本とヨーロッパの文化交流

ロンドンのオスカーワイルド

現代演劇に現れたイギリスの社会

長尾 建

【現在の研究テーマ】

日本近現代詩歌，及び評論研究

仲田 洋子

【社会活動】

「家族療法・短期療法」(2013年8月，川越市学校カウンセリング中級研修会)

【現在の研究テーマ】

カウンセリング教授法，コンサルテーション技法，電子メールによるカウンセリング，子どもの社会性

信岡 奈生

【研究ノート】

「ボリビアにおけるアンデス高地からユンガスへの移住」『駿河台大学論叢』第46号(2013年7月)，57-72頁。

【社会活動】

講演「さまざまな家族のかたち—諸民族の親子関係を中心に—」2013年11月16日，豊岡プチ大学

【現在の研究テーマ】

中央アンデスの宗教・社会変化

朴 昌明

【著書】

『韓国経済システムの研究—高パフォーマンスの光と影』(共著)(日本評論社，2014年3月)，担当部分は第3章「李明博政権下の韓国労使関係」(pp.53-77)。

【書評】

「横田伸子著『韓国の都市下層と労働者—労働の非正規化を中心に』(2013年11月，『現代韓国朝鮮研究』第13号，pp.89-91)。

「安周永(ミネルヴァ書房，2013年)『日韓企業主義的雇用政策の分岐—権力資源動員論からみた労働組合の戦略』(2014年3月，『海外社会保障研究』第186号，

pp.66-70)。

【社会活動】

リクルートワークス研究所におけるプロジェクトの編集協力(プロジェクト名「アジア9カ国の人材マーケットベジックリサーチ」の韓国部門を担当)

【その他】

「<Korea Watch>韓国の労使問題を聞く①」『東洋経済日報』(2014年2月14日記事)

「<Korea Watch>韓国の労使問題を聞く②」『東洋経済日報』(2014年2月21日記事)

【現在の研究テーマ】

韓国の人的資源管理・労働経済

林 好雄

【学術論文】

「教育と友愛(下)ーハイデガー, 道元, デリダール」(2014年1月, 『駿河台大学論叢』第47号, pp.23-66)

【現在の研究テーマ】

十九世紀フランス文学, 比較思想

原 聰

【論文】

人物識別における事後情報効果ー模擬犯罪場面を用いて 駿河台大学論叢, 第46号 73-84.

【口頭発表】

The influence of Double-blind and Single-blind lineup procedures on repeated identification.

The European Association of Psychology and Law 2013 Conference
Coventry University, Britain 2013.9.4

飯塚事件目撃証言フィールド実験に関するコメント
法と心理学会第14回大会シンポジウム

「法科学の可能性と危険性ー飯塚再審請求事件から考える」
九州大学 2013.10.12

【社会活動】

埼玉県警捜査主任官等定期講習 2013/6/7

心理学から見た捜査の注意点（目的証言研究を中心に）

埼玉県警部内教養（「刑事任用科」）講義 2013.6.17

心理学から見た捜査の注意点（目撃証言研究を中心に）

埼玉県警部内教養（「刑事任用科」）講義 2014.1.31

取調べの基本ー「目撃証言の真実」を素材として

駿大・地域フォーラム駿輝祭企画 「森活100」 2013.10.26

駿大・地域フォーラム運営委員

飯能市西川材フェア実行委員

飯能市農山村地域活性化協議会代表

飯能市教育委員会学習林活用教育推進事業森林実習指導

【現在の研究テーマ】

目撃証言と供述の心理学

平井 純子

【学術論文】

「里地里山型エコツーリズムの現状と今後への一私案ー飯能市を事例にー」

（2014年1月、『駿河台大学論叢』47号, pp.169-186）

【口頭発表】

「里地里山型エコツーリズムの現状と今後の展望ー埼玉県飯能市を事例にー」

（2013年9月,日本地理学会 秋季学術大会 於福島大学）

【社会活動】

しれとこ100平方メートル運動推進関東支部 役員

飯能市エコツーリズム推進協議会 委員

飯能市エコツーリズム 活動市民の会 会員

駿大・地域フォーラム 運営委員

もったいない kids 植林プロジェクト 理事

飯能農山村地域活性化協議会 委員

入間川流域地区活動組織 役員

パネリスト「森と人をつなぐ ～飯能市エコツーリズムでの取り組み～」(2013

年11月,育林交流集会,主催:公益社団法人国土緑化推進機構,埼玉県)

講師「飯能の里山をつくる，歩く」（2013年7月3日，東京シニア自然大学，公益
社団法人日本環境教育フォーラム）

講師「ブラックバス駆除を通じた大学と地域の連携～飯能市エコツーリズム・駿
河台大学での環境教育の一事例～」(2013年12月,環境教育関東フォーラム2013)

講師「森の恵みのクリスマスリースづくり」(2013年12月，駿河台大学公開講座)

講師「「知床」で感じる「旅情」の変遷～世界自然遺産の現状と観光～」(2014年
2月，ひので町民大学・総合講座)

エコツアー企画運営

「駿大の里山 竹とり物語」(2013年8月)

「駿大の里山 ワイルドクッキングと森の寄せ植え作り」(2014年3月)

「ヤマムスメが行く！」シリーズ (2013年5月～) ほか

【その他】

森林文化ブログ「駿大の里山から」<http://blog.goo.ne.jp/shinrinbunka-satoyama>

『森林と遊びのてびき—kids 農林技能検定—』(飯能農山村地域活性化協議会，
2014年2月，第3章里山 2 里山のめぐみ pp.34-37担当)

【現在の研究テーマ】

エコツーリズム，環境教育，観光地理学

廣野 行雄

【現在の研究テーマ】晩年の魯迅と中国共産党

檜皮 貴子

【学術論文】

「バランスボードを用いた女性高齢者向け転倒予防体操の考案」(2013年12月，
『体育学研究』第58号第2巻，PP707-720)

【研究ノート】

「大学生における『体づくり運動』の実施経験と意識調査-駿河台大学の学生を対
象として-」(2013年7月，『駿河台大学，論叢』第46号，pp97-111)

【口頭発表】

「学生による校歌を用いた自校体操創作に関する研究」(2013年9月，日本体操学
会第13回大会，於三重大学)

【現在の研究テーマ】

高齢者を対象とした転倒予防体操の考案
体づくり運動の教材に関する研究

M. A. Foulds

【現在の研究テーマ】

「古」狩野派代表者であり、越後地方で活躍した徳川幕府の表絵師狩野梅笑（1727～1807）の様式と、その影響から離れようとした梅笑の弟子で仙台藩御用絵師の東東洋（1755～1839）の様式とを比較する。

社会的な急変化を見せた化政時代の中で絵師達が一人一人の個性をどのように表現したかの研究。全国的に徐々に広がり人気を得た「新」円山四条派の代表者の一人として、東海道、中山道、京都、丹後地方で活躍した鈴木南嶺（1775～1844）の様式の説明をすることが研究の一番の目標。

福田 二郎

【現在の研究テーマ】 E. M. フォースターの研究，ヒューマニズム思想の研究

福永 昭

【その他】

Journal of Travel & Tourism Marketing 誌掲載論文審査2回（2013年12月および2014年3月）

【現在の研究テーマ】

旅行管理者資格取得教育

星川 熙

【現在の研究テーマ】

微小生物の運動，エネルギー基礎論

本間 邦雄

【研究ノート】

「ポール・ヴィリリオの“accident”に関するノート」（2014年1月、『駿河台大学論叢』第47号，pp.197-206）

【社会活動】

《第15回国際日本学シンポジウム フランスへの憧れ — 生活・芸術・思想の日仏比較 — 》セッションI「生活文化」パネルディスカッション司会担当（2013年7月6日，於：お茶の水女子大学）。『比較日本学教育研究センター研究年報』第10号（お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター，平成26年3月10日発行）所収，pp.57-61。

【現在の研究テーマ】

現代文明とフランス思想，比較思想

増田 久美子

【学術論文】

“Domestic Troubles: White Mistresses and “Black” Irish Servants in Antebellum Housekeeping Tales”『駿河台大学論叢』第47号（2014年1月），67-80頁。

「分断された家庭のなかの『良妻』—セアラ・ヘイルのハウスキーピング小説に領域論的矛盾を読む試み—」『言語社会』第8号（2014年3月），244-262頁。

【現在の研究テーマ】

19世紀アメリカの女性作家と「家庭性」の研究

増田 珠子

【著書】

現代演劇研究会編『現代演劇 [新版]』Vol.20（共著）（2013年8月，新水社）。担当部分は「サラ・ダニエルズ作品解説」の「朝の光」（pp.83-87），および「現代イギリス女性劇作家・案内」の「ギャノン，ルーシー」（pp.179-180），「ダーシー，マーガレッタ」（pp.185-186），「デ・アンジェリス，エイプリル」（pp.194-195），「ディレイニー，シーラ」（pp.195-196），「ワーテンベイカー，（レイエル・ルイジアナ）ティンバーレイク」（pp. 206-207）。

【口頭発表】

「Tom kitt and Brian Yorkey, *Next to Normal*について」（2013年4月，現代演劇研究会，於法政大学市ヶ谷キャンパス）

【現在の研究テーマ】

イギリス演劇，児童文学，児童演劇

邑木 隆二

【社会活動】

宮崎県宮崎市主催 陸上競技教室講師

宮崎県高体連陸上競技強化練習会講師

入間市陸上競技教室開催 9月 第1週・第2週

入間市ウォーキング教室・ランニング教室・レクリエーション教室 開催

【現在の研究テーマ】

総合型地域スポーツクラブの存在意義・存在価値および存在効果についての考察
陸上競技クラブ（実業団・クラブチーム・学校部活動）におけるクラブマネジメント方法についての考察

コーチング（陸上競技）

門馬 幸夫

【現在の研究テーマ】

部落問題の研究

「正法眼蔵」のデータベース構築

山本 耕一

【学術論文】

山本耕一「資本が多すぎる」（2013年8月、『情況』第四期第二巻第四号, 92-101頁）

【現在の研究テーマ】

スラヴォイ・ジジエク思想, マルクス『経済学批判要綱』の研究

油井 恵

【現在の研究テーマ】

言語とカテゴリー認知, 言語使用とアイデンティティ

葉 紅

【社会活動】

ノーベル文学賞受賞作家莫言の「罪過」を読む

「原書で読む中国文学の会」毎月一回開催

【現在の研究テーマ】

《大公報》に育てられた作家蕭乾

吉住 知文

【著書】

2014年3月15日、『地理 B 指導書』（共著），東京書籍

【社会活動】

講演：2013年5月22日，「植民地期インドの森林政策と住民生活 -ヒマラヤの視座から-」，埼玉県高等学校社会科教育研究会総会

講演：2013年7月20日，「住んでみたイギリス」，豊岡プチ大学

【その他】

2013年5月18日，「森と人と文化」，『埼玉新聞』

【現在の研究テーマ】

インド森林政策史
開発教育

吉野 貴順

【社会活動】

- ◆ 日本フロアボール連盟常任理事（国際委員長・アンチドーピング委員長）
- ◆ アジア／太平洋フロアボール連合理事

【フィールドワーク】

- ◆ 2013年12月「2013男子世界フロアボール選手権大会（チェコ・ブルノ／オストラバ）」日本代表チーム監督（15位）
- ◆ 2014年1月「2014アジア／太平洋フロアボール選手権大会（ニュージーランド・ウェリントン）」日本代表チーム監督（3位：2014世界フロアボール選手権大会の出場権獲得）

【現在の研究テーマ】

- ◆ スピードスケート競技選手の体力と競技力との関係
- ◆ フロアボール競技選手の国際的競技力向上に関する実践的研究

吉野 瑞恵

【著書】

鈴木健一編『千年の百冊』(共著)(2013年4月,小学館)。担当部分は,蜻蛉日記,紫式部日記,更級日記,讃岐典侍日記,往生要集,今昔物語集,底本・参考文献一覧。

三田村雅子・河添房江編『源氏物語をいま読み解く4 天変地異と源氏物語』(共著)(2013年6月,翰林書房)。担当論文は,「崇る陵墓—須磨・明石巻の桐壺院の霊—」 pp103-126.

【現在の研究テーマ】

和歌および日記文学における「公」と「私」の関わりについての研究
平安時代の文学と仏教思想の関わりについての研究

吉松 梓

【口頭発表】

「自然体験活動と心理臨床-事例から学ぶその4-」(2013年6月,日本野外教育学会第16回大会,於京都)

【現在の研究テーマ】

野外教育,自然体験療法

渡辺 裕子

【著書】

『「若者の性」白書—第7回青少年の性行動全国調査報告』(共著)(2013年8月,日本性教育協会編,小学館)担当部分は「消極化する高校生・大学生の性行動と結婚意識」, pp.81-100。

【学術論文】

「震災時に想定される避難所運営の課題 : 防災訓練参加者調査から」(単著)(2013年9月,『駿河台経済論集』第21巻第1号, pp.77-102)

【社会活動】

「要介護期間を過ごす「終の住みか」のあり方」(2013年5月25日,駿河台大学公開講座)

「高齢者の居住福祉政策」(2013年9月12日,所沢市民大学)

「消極化する高校生・大学生の性行動の日常—第7回青少年の性行動全国調査から」(2013年9月14日,第14回日本性科学連合・性科学セミナー,於横浜市社会福祉センターホール)

「女性の就業・生活と社会保障制度」(2013年9月19日, 所沢市民大学)

「障害者にとっての家族—自立生活運動における家族観—」(2013年12月7日, 豊岡プチ大学)

【現在の研究テーマ】

若者の行動と少子化に関する研究

震災による市民活動の変化に関する研究